



中友会の課題

中友会の目的は「会員の親睦と互助を深め、あわせて生涯学習の充実を図る」となっています。この目的を果たすためには一人ではできません。また、中友会会員の年齢は六十代から百歳代と幅が広いので、皆さんの希望や願いも様々です。そんな私たちが目的達成のためにできることは何でしょうか。

中友会がさらに発展し、目的を達成するために次の課題が考えられます。課題は大きく二つあると思います。一つは財政が厳しいこと。二つ目は行事に参加する人数がコロナ前の数に戻っていないことです。

財政に関しては前回の会報にもあったように、郵便料金の値上げが大きく響いています。財政の逼迫により継続して会費を納めていない方に限っては会報を送ることができない状況になりました。また、コロナの感染が下火になり、普通の生活に戻った今でも行事に参加する人がコロナ前の約半分となっています。

目的達成のために現在行っているのは行事や会報を通しての交流です。役員の方々がどうしたら中友会の目的が達成できるか、中友会がさらに発展するにはどうするかを考えていく中で「趣味悠々会員の意」という発想が生まれました。

【発行所】
中友会
港区西新橋1-22-13
全日本中学校長会館202号室
東京都中学校長会事務局内
TEL 03-3504-8705
FAX 03-3504-8706

会則第2条

- 親 睦
- 互 助
- 生涯学習

<https://churu-kai.org/index.html>

中友会のホームページを開けてみませんか

中友会副会長 古澤 壽朗

現在会報には「会員の意」という欄があり総会、懇親会、研修会、会報の作成、合祀慰霊祭、名簿の作成などの行事や活動が終わったときに反省も含めて「会員の意」に書いていただき、文章での交流や発信を図っています。皆さんが参加することによりお互いの交流を増やし、助け合い、生涯学習を続けることに繋がるのだと考えます。

課題の解決に向けて・・・働き方改革とデジタル化。現在いろいろなところで働き方改革が叫ばれています。学校では教員や副校長が忙しすぎるというものです。この流れは日本の働く方が「いつでも、どこでも、働きたいときに働く」という方向になってきているように感じます。私の勤務している世田谷区でもDX（デジタルトランスフォーメーション）が叫ばれています。この1～2年の変化では、出退勤の確認に出勤簿と印鑑の代わりタブレットで出勤時間と本人確認（顔認証）をされています。ペーパーレス化が進み、紙の資料が配布される代わりに、メールに添付された資料が送られてくるようになりました。有線LANが無線LANとなり配線が必要なくなったため、学校の中ではどこにいてもいつでもタブレットが使える状況になりました。様々な登録が紙申請

から電子申請に変わり、家に居ながらスマートフォンでの登録・申請ができるようになりました。会議や研修がパソコンでできるようになり、出張の回数が減少してきました。このようにデジタル化がどんどん進んでいます。そこで、私が思ったのは中友会のデジタル化です。すべてを一緒にデジタル化することはできませんが、少しずつならば可能ではないでしょうか。

今できることを考えてみると・・・

中友会のホームページを開けてみませんか。中友会では、年間にやる行事は決まっています。交流をさらに活発にするためにはパソコンやスマートフォンが手助けになるのではないかと考えました。パソコンやスマートフォンは使える人もいますが、苦手な人も多くいます。どのような活用方法があるのか考えながら少しずつ取り入れていくことはできないものかと考えます。

そこで私からの提案です。

現在デジタル化されているのは中友会のホームページです。まずは皆さんがホームページを見ることが始めてみませんか。インターネットのマウスソフトのエッジやグーグルクロームなどの検索エンジンから検索欄に「中友会」と入力して検索すると、最初に中友会のホームページが出てきます。また、次のQRコードをスマートフォンで読み込むと中友会のホームページが出てきます。この中で意見の交流ができれば中友会のデジタル化が一段進むかもしれません。交流は話すことだけではなく、写真や文章を書くことでも促進できるのではないのでしょうか。中友会の活動をさらに発展させるためにはどうするか。この課題を解決することはなかなかできていませんが、少しでも目的の達成に近づきたいものです。



QRコード

時代のスピードについていくのは大変な面もありますが、少しずつ新しいことに挑戦してみることで改善できることもあるのではないかと、というのが私の想いです。